

栗山町の観光プロモーションに特化したイラスト素材 Web サイトの構築

杉澤愛美, 坂本牧葉, 斎藤一, 長尾光悦

1. はじめに

観光プロモーションにおいて写真やイラストなどのビジュアル素材は非常に重要である。特にイラストは、写真と比べて伝えたい情報をより強調できる点や、親しみやすい印象を与える点などで優れており、プロモーションにおいて欠かせない要素である(図 1)。新規でイラストを制作するには費用がかかるため、無料のイラスト素材配布サイトが多く利用されている。しかし、いらすとや[1]などの一部の使い勝手の良い素材サイトばかりが利用された結果、どの地域のプロモーションにも同じイラストが使われるという事態が起きている。本来地域の特性を理解し、差別化して魅力を伝えなければならない観光プロモーションの現場では、地域毎に特化したイラスト素材「地域特化型イラスト素材」が必要になると考えられる。



図 1 イラストの利点

一方で、近年 AI 画像生成ツールが急速に発達し、今後イラスト素材は個人で自由に出力できるようになる可能性が高い。しかし、出力した画像から目的・用途に適したイラスト素材を選び取るのは人間であり、それを行うにはイラスト素材の特性の理解や制作の知識、技術を学ぶ必要がある。そのため、今後もイラスト素材制作の知識、技術を持つ人材の育成は重要な課題である。

そこで、イラスト素材制作人材の育成と地域特化型イラスト素材の実現を目的とし、学

習を兼ねた地域特化型イラスト素材制作フレームワークを提案する。これは、イラスト制作の学習の中で制作した素材を、観光プロモーションに直接活用できる仕組みである。本稿では、本フレームワークの実現のために必要な Web サイトの構築と、学生の手本となるイラスト素材の制作、およびその評価を行った。

2. 地域特化型イラスト素材制作フレームワーク

地域特化型イラスト素材制作フレームワークの仕組みを図 2 に示す。これは、イラスト制作の学習の中で制作した素材を、観光プロモーションに直接活用できる仕組みである。学習対象者はイラストレーションの講義がある専門学校や大学に通う学生である。まず、各教育機関のイラストレーションの講義の課題として「特定の地域のイラスト素材制作」を取り上げる。対象の講義を受講する学生は、教員の指導を受けながら地域の特色について調査、分析を行い、必要なイラスト素材を考え、制作する。教員は、学生が制作したイラスト素材の中から完成度の高いものを選抜し、イラスト素材 Web サイトに掲載する。対象となる地方自治体は、この Web サイトにアクセスし、地域特化型イラスト素材をダウンロードすることで自由に使用することができる。学生は実践的なテーマを基にイラスト素材制作の知識・技術を高めることができ、採用されれば自身の実績とすることができる。また、対象の地域の理解が深まり、興味・関心を高めることができると考えられる。また、地方自治体は地域特化型イラスト素材を活用し、魅力的な観光プロモーションに繋げることができる。

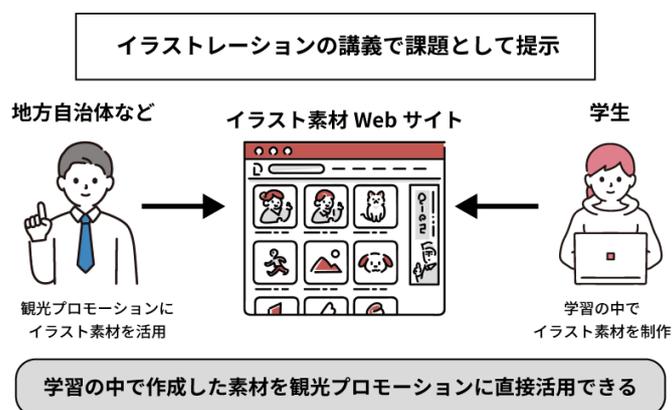


図 2 地域特化型イラスト素材制作フレームワーク

3. 対象とする地域

今回対象とした地域は栗山町である。栗山町は、北海道空知総合振興局管内南部にある人口 11,470 人の町である。札幌や新千歳空港から車で約 40 分と、アクセスは比較的良好な立地である。また、国蝶であるオオムラサキやホタルが見られる自然豊かな土地である。特産品はジャガイモ、たまねぎ、トマトなどの農産物が多く、特にメロンはふるさと納税

の返礼品としても人気が高い。約 300 店の露店が集う町内最大のイベント「栗山秋まつり」では、町内外合わせて 20 万人を動員した実績がある。栗山町は現在観光地としての認知度が低く、観光プロモーションを課題としている地域である。令和元年の観光入込客数は、同じ空知管内の砂川で 162 万 5,200 人だが、栗山町は 36 万 5,000 人と約 4 分の 1 程度に収まっている[2]。さらに、新型コロナウイルスの影響で 2020～2021 年は最も観光集客数の多い栗山秋祭りの中止を余儀なくされた。2022 年は開催にこぎつけたものの、規模を縮小せざるを得ない状況が続いている。

4. 栗山町へのヒアリング

まず、無料イラスト素材利用の現状を把握するため、栗山町関係者にヒアリングを行った。ヒアリングを通じて、現在町役場内で制作する告知用のチラシ等は、無料イラスト素材で最も認知度の高い「いらすとや」が使用されていることがほとんどであることがわかった。一方で、観光プロモーションの課題として、隣町である由仁町や長沼町等とどう違うのかを明確にし、アピールする方法に苦労している、という課題を抱えていることがわかった。また、議論の中で、栗山町にはわかりやすい景観スポットがあまり存在せず、写真での周知では魅力的に伝えるのは難しいという課題も明らかになった。地域特化型のイラスト素材を利用できるのであれば、地元にはしかない飲食店のプロモーションや、農産物の直売を行っている農家さんの紹介等で活用したい、との意見も得られた。

5. イラスト素材リストの作成

ヒアリングの結果と栗山町の調査内容を基に、本事業で制作するお手本のイラスト素材リストを作成した。イラスト素材は 6 カテゴリ全 77 種とした。「特産品」カテゴリでは栗山町のプロモーションでよく使われる特産品を選定した。「観光体験」カテゴリでは、栗山町で体験することのできるアクティビティを選定した。「生き物」カテゴリでは、栗山町に生息する主な生き物たちを選定した。「飲食店」カテゴリでは、栗山町の関係者がおすすめる特徴のある飲食店を選定した。「観光スポット」カテゴリでは、栗山秋祭りに関連するものや、歴史的価値のあるスポットなどを選定した。「ターゲット」カテゴリでは、栗山町に観光に来てほしいターゲット層の人物のほか、町内の様子などを表現するため、様々な年代の栗山町民を選定した。また、イラスト素材リストの中でも実際の様子を見なければ特徴がわかりづらい素材を中心に、現地での取材・撮影を行った(図 3)。



図3 現地での取材・撮影の様子

6. イラスト素材の制作

6.1 イラスト素材の基準の作成

イラスト素材は複数の素材を組み合わせて使用する場合も多く、違和感なく使用するには統一感を持たせなければならない。そのため、イラスト素材の基準を作成した(図4)。

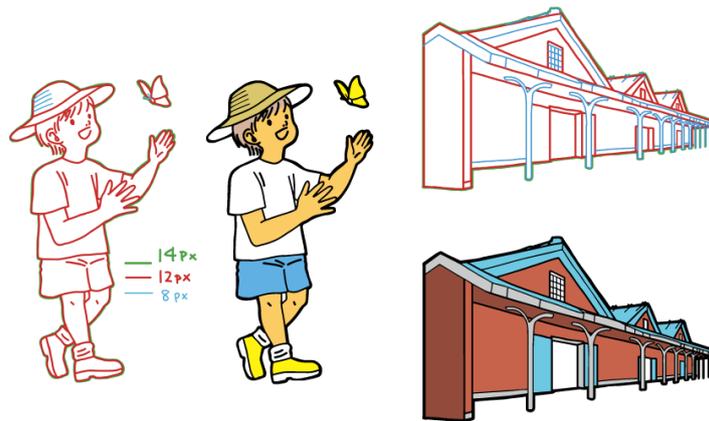


図4 イラスト素材の基準

基準の項目は「書き込みの程度」「人物の表現方法」「影表現の有無」「色の彩度」である。「書き込みの程度」では、建物や食べ物などの実物をイラストとして表現する際に、どの程度線を書き込む必要があるのかを決定した。線を書き込めば書き込むほど写実的になりリアリティが増す一方、イラストの利点である親しみやすさが失われる。今回は14pxと12pxの2種類の太さの線を指定した。「人物の表現方法」では、等身を5頭身とした。低めの等身とすることで、画像が縮小されても描かれている内容が伝わりやすくなる。さらに、耳、鼻、手指を省略せず表現することで、幼くなりすぎないように配慮した。「影表現の有無」では影表現は無しとした。影を表現した場合、立体感が強調され存在感が増す一方、過剰に主張し、挿絵として使用する際ノイズとなる可能性が高いためである。「色

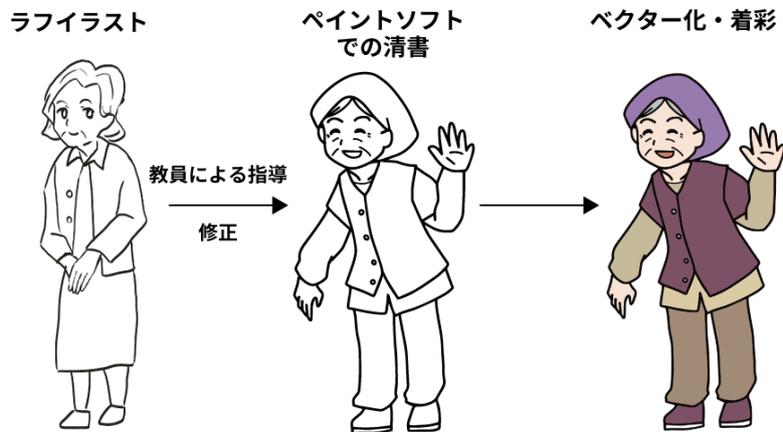


図6 イラスト素材制作過程

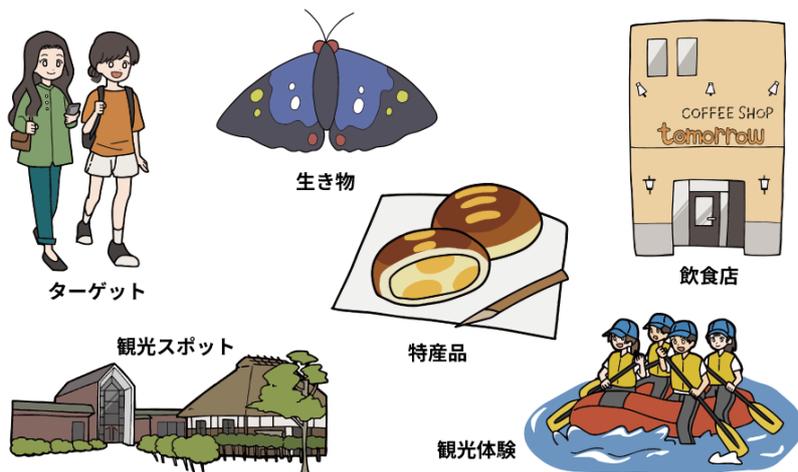


図7 完成イラスト素材の一部

制作過程において、主に以下8点の指導を行った。

- ①家族を表す時は一般的な家族構成である父・母・男児・女児の4人家族で表現する
- ②建物や乗り物など複雑なものは角度をつけないことで他の素材と並べたときの違和感を軽減する
- ③角度をつける際はすべての角度を統一する
- ④人物はその地域にいそうな人物を描写する
- ⑤人物は子供、大人で背丈を変える
- ⑥男性の肌色は濃く、女性の肌色は明るくすると、性別が強調されわかりやすくなる
- ⑦参考写真そのままではなく、特徴を誇張する

⑧分かりやすさを優先し、大胆に略す、変更することも必要

これらの指導内容はどの学生のラフにも共通していたため、イラスト素材制作における知識・技術として特に重要な項目であると考えられる。

7. Web サイトの構築

Web サイトは、Python で実装された Web アプリケーションフレームワークである、django により開発した。django のバージョンは 4.1, Python のバージョンは 3.10.6 である。

Web サイトの利用者は閲覧や画像のダウンロードを行うことができる。ただし、画像の投稿は、運営（教員）側で登録を許可した利用者のみが行うことができる。画像は、カテゴリ分けとタグ付がされている。カテゴリは前述した 6 カテゴリを使用している。タグはイラストの内容によって、イラストの制作者やサイトの管理者が自由に付すことができるようにしている。図 5 はイラストの 1 つを表示した例である。利用者は、図 8 の右下のボタンにより、PNG 形式や SVG 形式でダウンロードすることができる。



図 8 Web サイト イラスト素材ダウンロード画面

5. 評価

本フレームワークおよび Web サイト、イラスト素材を評価するためには、イラスト素材制作能力の変化と、地域特化型イラスト素材の有用性を明らかにする必要がある。しかし、これらは実際に講義を行わなければ評価をすることができない。そこで本稿では、まず手本となるイラスト素材制作を行った学生を対象に、地域特化型イラスト素材制作に対して学生が積極的な取り組み態度で臨めたかどうかを評価した。

評価は、本制作開始前の 2022 年 9 月 30 日（金）と、制作完了後の 2023 年 2 月 16 日（木）に行った。学生の自身の普段のイラストレーション制作への取り組みと栗山町の地域

特化型イラスト素材制作への取り組みを評価してもらい、それぞれを比較する。検証対象者は、期日までにイラスト素材制作を完了させた計3名の学生である。評価はGoogleフォームを用いたWebアンケート形式で実施した。評価項目は、美術教育における評価カテゴリである意欲、発想、技法、鑑賞[3]にデザイン分野で特に重視されるコミュニケーションを加え、20問（各カテゴリ4問）を設定し、各設問を5段階評価とした。

t検定によって制作前後の主観評価を比較した結果、意欲カテゴリのQ.2「絵を描いていると時間を忘れる」は制作前の評価の平均値の方が高く、有意傾向（ $0.05 < p < 0.10$ ）が確認された（表1）。また、技法カテゴリのQ.9「イメージ通りに絵を描くことができる」の項目では、本制作の平均値の方が有意に高かった（ $p < 0.01$ ）（表1）。

これらの結果から、栗山町の地域特化型イラスト素材制作では、普段の制作ほどの没入感は得られなかったが、イラストの利用目的が明確であるため、描きやすく感じられた可能性が示唆された。したがって、地域特化型イラスト素材制作を課題とした場合でも、指導によりゴールを達成しやすく感じられる傾向があると考えられる。

また、栗山町への理解や好ましさが増したかについては、全員が5段階中5と回答しており、地域特化型イラスト素材の制作が、地域理解の促進と興味関心向上に寄与している可能性が示唆された。本制作で得られたことに関するコメントについても、こちらで指導を行った内容に関連するものが多く、イラスト素材制作に関する知識・技術の向上につながる可能性を感じた。

普段のイラストレーションの取り組み		
	意欲2	技法1
ID	(2) 絵を描いていると時間を忘れる	(9) イメージ通りに絵を描くことができる
被験者I	5	4
被験者Y	5	3
被験者U	5	3
	5.00	3.33
栗山蝶の地域特化型イラスト素材制作		
ID	(2) 栗山町フリー素材制作では、時間を忘れて制作した	(9) 栗山町フリー素材制作では、イメージ通りに絵を描くことができた
被験者I	3	5
被験者Y	4	4
被験者U	4	4
	3.67	4.33
p値	0.057	0.000
	有意傾向	有意差あり

表1 検証結果

6. おわりに

本稿では、イラスト素材作成人材の育成と地域特化型イラスト素材の実現を目的とし、学習を兼ねた地域特化型イラスト素材制作フレームワークを構成する、Web サイトとイラスト素材を制作した。また、地域特化型イラスト素材制作に対して学生が積極的な取り組み態度で臨めたかどうかを評価した。評価の結果、地域特化型イラスト素材制作を課題としたとき、学生はゴールを達成しやすく感じられる傾向が示唆された。

今後は、本 Web サイトを用いた模擬講義の実施とその評価を実施する予定である。また、栗山町関係者を対象に、本 Web サイトを用いて制作した地域特化型イラスト素材の有用性について評価する予定である。また、講義で地域特化型イラスト素材制作を行う場合、どのような授業計画で実施するべきかについても検討する。

[1] みふねたかし, いらすとや, <https://www.irasutoya.com/>

[2] 北海道経済部観光局観光振興課, 令和元年度【2019年度】(平成31年(2019年)4月～令和2年(2020年)3月)北海道観光入込客数調査報告書(資料編), https://www.pref.hokkaido.lg.jp/fs/2/3/0/6/1/8/3/_/R1_irikomi_honbun.pdf

[3] 藤澤英昭・水島尚喜編, 図画工作・美術教育研究 第三版, 教育出版(2010)